経　歴

平成２５年　４月　　総務省採用
　　同　自治行政局住民制度課
平成２５年　８月　　現職

「想い」を大切に

宮崎県総務部市町村課

遠藤　啓

Kei　Endo

地方を守りたいという「想い」の芽生え

いわゆる「失われた２０年」を生きてきた私は、高校生の頃から「国家公務員になって日本を元気にしたい」という思いを抱いていました。そんな中、父の勤務する研究所の移転問題が発生しました。大阪市内にある研究所が老朽化し、後継施設を大阪と首都圏のどちらに建設するかが問題となったのです。大阪府は何百億もの補助金投入を約束したのですが、最終的には首都圏に移転してしまいました。日本第二の都市・大阪でさえも止められない、首都圏への一極集中を目の当たりにし、「大阪でさえこのような苦しい状況なのだから、他の地方はさらに過酷な状況にあるのだろう」という危機感を覚えました。「国家公務員になって日本を元気にしたい」という漠然とした「思い」が、「国家公務員として地方の元気を生み出す仕事をして、日本全体に活力をもたらしたい」という信念を伴った「想い」へと昇華した瞬間でした。

「想い」を具現化できる職場とは？

一方で、私は「地方」のことをそれほど知らないことも自覚していました。地元である大阪についてでさえ、自分の育った市以外の市町村については馴染みがない、そんな状態で「地方のために働くことが果たして正しいことなのか」という不安も抱いていたのです。

「地方」と一口に言っても、地理的条件等が異なる以上、各々が抱える課題も千差万別です。そして国家公務員として地方全体の元気を生み出すには、そのような課題一つ一つに真正面から向き合わねばなりません。そのためには、多様な課題を把握する「視野の広さ」、そしてそれらに真摯に向き合う「高い使命感・人間性」が求められると考えました。

その点、総務省では入省後すぐ地方に赴任し、地方の現状を肌で感じ取ることができます。さらに、その後も地方赴任を繰り返して、地方に対する見方をより幅広く、深めることができます。特に財政課長などの組織全体を俯瞰することを求められるポストに若くして就くことで、「半強制的に」自らの視野を広げることができます。

そして私が何より惹かれたのが総務省の「人」です。先述したようなキャリアパスもあって、総務省には仕事面だけでなく人間性の面でも自己研鑽を怠らない組織風土があります。それゆえ、総務省の先輩は人間的な温かみにあふれた方ばかりです。総務省に入れば、魅力あふれる先輩方とともに活き活きと地方のために働くことができる。そう確信し、入省を決めました。

宮崎で得た「財産」

私は昨年８月から宮崎県へ出向し、精力的に県内を回っています。着任後三日目に参加した「日向ひょっとこ祭り」では、宮崎の熱いエネルギーを肌で感じ、異国に来たかのようなワクワク感に包まれました。祭りに限らず、食文化や伝統、県民性等、すべてが私にとって新鮮です。市町村への出張では、宮崎のおいしい焼酎を酌み交わしながら市町村職員の方々の地元への熱い「想い」にも触れています。日々の経験がとても刺激的で、今後総務省で政策を立案する上での大きな「財産」となることを確信しています。

また、職場の方々と公私の両面で触れ合えるのも地方勤務の醍醐味です。同期や先輩とともに県庁の運動会にて応援団として声を枯らして応援したり、課の有志でフルマラソンに参加するなど、私も一生モノの絆を得ることができました。

さいごに

総務省は地方に対する熱い「想い」にあふれた先輩方と誇りを持って働くことのできる職場です。一度きりの人生、行政官としても一人の人間としても向上心を絶やさない素晴らしい先輩方の後ろ姿に学びながら、「地方の元気を生み出す」というスケールの大きい仕事に取り組んでみませんか。「自分のふるさとが寂れていくのが何となく悲しい。」そんな素朴な「想い」からでも構いません。その「想い」を大切にして、総務省の門を叩いてみましょう。魅力ある仕事と人が待っています。

県庁運動会での選手宣誓

青島太平洋マラソンへ職場のメンバーで参加
（筆者後列 左から4人目）

経　歴

平成25年　4月　　総務省採用
　　現職

１年目職員から見た総務省

情報通信国際戦略局国際協力課

田中 星良

Seira　Tanaka

総務省を選んだ理由

私は大学時代、短期留学や国際会議等に参加し、海外の学生と交流する機会に恵まれました。友人の学生達は自国に誇りを持った上で、日本にも好意を持ち、日本という国を理解しようとしていました。自分の国である日本について海外の友人たちのように深く考えたことのなかった私ですが、友人たちと交流をしていく中で、自分も日本という国を改めて見つめ直すようになりました。そして、自分も日本人として誇りを持ち、日本がより素晴らしい国になるように貢献できる仕事に就きたいと思うようになり、国家公務員を目指すことにしました。中でも総務省は、技術革新のスピードが速く、即応的な対応が求められる情報通信技術（ICT）分野を所管している省であり、私もダイナミックに動く産業とともに自分の能力を高めながら仕事をしてみたいと思い、入省を決めました。

私の仕事の紹介

現在、私は日本の成長を牽引するICT分野における総合的な政策を企画する「情報通信国際戦略局」という部署にいます。情報通信国際戦略局の中には、ICTの海外展開及び諸外国や国際機関との政策協調に取り組む「国際政策課」「国際経済課」「国際協力課」があり、私はアジア地域におけるICT分野の海外展開を行う「国際協力課」という課に所属しています。

具体的な業務としては、日本のICT産業が強みを持つ防災や環境等のシステムを、ASEANを中心とする地域に展開する仕事を担当しています。例えば、ASEAN諸国の中には、地震や津波の被害が日本同様に多く災害対策が大きな課題となっている国もあります。日本は、地理的に古くから地震が多く、数多くの対策がとられてきており、現在では地震発生時には個人の携帯電話に緊急地震速報が届き、テレビやラジオを通じ避難情報がほぼ確実に送られるまでになっています。このように日本のICT産業が強みを持つ分野において、ICTのシステムを各国の文化や社会的価値観、宗教等に配慮しながら、相手の国に合った形で展開し支援するという仕事をしています。相手国の関係省庁や日本の企業と検討を重ね、時には協議が難航することもありますが、そうした過程を経て、相手国にも喜んで受け入れてもらえるものができた時の感慨はひとしおです。言語や文化の違いがあり、困難なこともありますが、非常にやりがいのある仕事だと感じています。

出張の機会

このような国際関係の部署に所属していると、大臣、副大臣及び政務官のミッションに随行する機会に恵まれることもあります。私も、先日ウズベキスタン及びインドへの副大臣のミッションに随行し、国際協力の現場を見ることができました。特に、ウズベキスタンでは日本との二国間でのICT分野における協力枠組みを強化することを取り決めた覚書が締結されましたが、覚書署名式の会場には、政府関係者のみならず民間企業や報道関係者も大勢詰めかけており、本覚書の締結に向けての多くの人の努力や今回の覚書締結に寄せる人々の関心の高さがうかがえました。このように、現地で国と国との取決の場を間近に見ることもでき、新しい経験もできる職場であることを更に認識しました。

終わりに

総務省は自分のやる気があれば、更に能力を伸ばし、国際感覚も同時に身につけることができる、やりがいのある職場だと思います。日本のICT政策のみならず各国の文化や外交に精通した語学力ある上司や先輩に囲まれ、様々な刺激を受けながら、新米の私も一刻も早く仕事のプロに近付けるよう、充実した毎日を送っています。

出張先のインドにて（筆者左から２人目）